

News!

「おおいた豊後牛」の輸出拡大へ台湾で販促イベント

焼き肉店に現地メディア、消費者招きPR

大分県本部

大分県本部は4月16日、自己改革の一環である「輸出拡大」を図るため、大分県やJA全農ミートフーズ(株)九州営業本部、JA全農インターナショナル(株)と連携して、「おおいた豊後牛」の輸出拡大に向けた販促イベントを台湾で開きました。

販促イベントでは、焼き肉店に現地メディアを招き、県本部職員が「おおいた豊後牛」の魅力や歴史について説明した他、同店舗のお得意様約50人を対象にした「おおいた豊後牛」の発表会と試食会を行いました。

「おおいた豊後牛」の特徴的な取り組みとして①肉の

うま味成分である「オレイン酸」の測定と、②個体の出生からの生育履歴を照会できる「おおいた豊後牛肉通行手形」の発行を行っています。

これらの取り組みにより、安全・安心で高品質な豊後牛肉を消費者へ届けています。



台湾の飲食店で豊後牛肉の魅力や歴史について説明する大分県本部職員(右)



試食会の参加者から高い評価を得て、特にオレイン酸の測定に関心が集まった

News!

会津産アスパラガスがセブン-イレブンおむすびに

3年目、6月10日まで福島県の春の味 お届け

福島県本部

福島県のJA会津よつば管内の旬のアスパラガスを使った「サンドおむすび アスパラベーコンマヨネーズ」が、5月14日から6月10日までの期間限定で福島県内のセブンイレブン422店舗で販売されています。

この取り組みはJA会津よつばと福島県本部が、株式会社セブン-イレブン・ジャパンと食品メーカー「わらべや日洋株式会社」と連携し平成29年から始まり、今年で3年目となります。

今年からは従来の手巻きおむすびから「サンドおむすび」に形状を変更しています。

昨年秋の好天



で甘みの多いアスパラガスとベーコンが、おにぎりの中にたっぷり入っています。販売価格は一つ税込み145円です。

福島県本部の猪股孝二本部長は「消費者の皆さまに福島県の春を味わってほしい。今後も県産農畜産物の消費拡大に向けてさまざまな形で取り組んでいきたい」と抱負を述べました。



福島県内のセブン-イレブンで販売されている「サンドおむすびアスパラベーコンマヨネーズ」



ドローンによる鉄コーティング播種の実演会

生産コスト低減による担い手の経営安定目指す

新潟県本部

新潟県本部とJA北越後は5月9日、聖籠町でドローンによる鉄コーティング種子の播種実演会を開きました。

鉄コーティング直播栽培は一般的な移植栽培と比較して、育苗・田植え作業の軽減、生育期間のずれによる秋の収穫作業の分散などのメリットがあり、ドローンの活用で、さらなる生産コスト低減と規模拡大が期待できます。

当日は生産者やJA、県地域振興局などから約70人が訪れました。

ドローンによる播種作業は、10アールの圃場を約5分で終了し、乗用播種機による点播(20〜30分)と比べ、大幅に作業時間が短縮されました。

今後、5月末には除草剤、8月には殺菌剤、殺虫剤の散布実演会を予定しており、農業用ドローンの一貫した活用による生産コスト低減効果を検証します。



担当者から説明を受ける実演会参加者



10アールを約5分で終了したドローンによる播種作業



来年1月に第3回和牛甲子園を開催

集え! 和牛を肥育する全国の農業高校の「高校牛児」

畜産総合対策部

全農は令和2年1月16、17日に、東京都港区で第3回和牛甲子園を開きます。

和牛甲子園は、和牛を肥育する全国の農業高校の生徒「高校牛児」たちが、和牛の肉質と日頃の取り組み内容を競う大会で、①将来の担い手候補である高校生の就農意欲の向上②日本各地で同じ志を持つ高校生同士のネットワークを創出し、意欲と技術の向上を図る——の2点を目的に開催しています。

平成31年1月の第2回大会では全国11県から23校84人が参加。取組評価部門と枝肉評価部門を合わせた総合評価部門では、岐阜県の

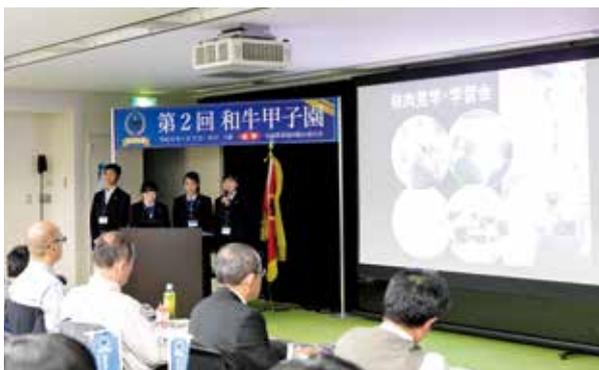
飛騨高山高校が2連覇を果たしました。

大会は産地や学校関係者からも「他に例のない有意義な取り組みだ」「生徒の学びや成長につながる」といった声上がるなどの評価を得ており、テレビや新聞など多くのメディアに取り上げられています。

第3回和牛甲子園の参加校募集は後日行います。



第2回和牛甲子園の枝肉勉強会



第2回和牛甲子園の体験発表会

News!



市民ランナー、来場者に岐阜県産農畜産物PR

第9(Q)回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンに協賛

岐阜県本部

岐阜市の岐阜メモリアルセンターを拠点に4月28日、「第9(Q)回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」が行われ、岐阜県本部は大会協賛と共に県内外から訪れた多くの市民ランナー・来場者に県産農畜産物をPRしました。

マラソンコースの給水所では、ぎふ農協岐阜市いちご部会が「岐阜いちご」を配付。同部会の若手生産者で組織する青年部が中心となって準備した「濃姫」と「美濃娘」約450kgを、生産者とJAぎふ、県本部職員が沿道に立ち、声援を送りながらランナーに手渡しました。

大会前日から開催されているイベント会場では、岐阜県本部直営店の飛騨牛料理「匠味」が飛騨牛串、お米ジェラート(県産米ハツ



「岐阜いちご」をランナーに手渡し、ぎふ農協岐阜市いちご部会の西垣青年部長

シモ使用)、美濃いび茶(抹茶入り)350g、飛騨牛串は「毎年走った後に食べるのを楽しみにしている」とりピーターが付くほど大人気で、新商品のお米ジェラートも「米粒の食感がおもしろい」と好評でした。また、「ぎふの米」イメージキャラクターの「ぎふマイの里」が県内外のランナーや来場者と交流。大型ビジョンでは「ぎふの米」などのCMを放映し、多くの来場者に県産農畜産物のおいしさや魅力をPRしました。



毎回人気を集めている飛騨牛串などの販売

News!



ラジオ番組と連携し田植えイベント

早場米産地の千葉産米PRと認知度向上へ

千葉県本部

千葉県JAかとり管内の神崎町の水田で5月8日、ラジオ局ニッポン放送の「飯田浩司のOK! Cozy up!」と連携した田植えイベントが行われました。

この取り組みは、早場米産地である千葉県産米のおいしさを消費者へお届けするために、千葉県産米のPRと認知度の向上を目指し、今年で19回目となります。

当日は、田植え日和の中、JAかたりの武田好久組合長をはじめ、ラジオ局関係者、JA関係者など約30人が参加し、番組パーソナリティーの飯田浩司アナウンサーと新行市佳アナウンサー



田植えイベントに参加した前列右からJAかたりの武田組合長、飯田アナウンサー、新行アナウンサー。後列右から2人目は千葉県本部の木村浩彰県本部長

サーが農事組合法人こうざきめぐみ農場の鈴木代表理事の指導で、「コシヒカリ」を植えました。

飯田アナウンサーは、「番組を通して一層の千葉県産米のPRに役立ちたい」と力強い意気込みを語りました。田植え後、JAかとり女性部古原支部の皆さんによる地元旬の食材を使ったおにぎり・たけのこご飯・シチューなどが振る舞われ、大変好評でした。

武田組合長は、「ラジオ番組を通じて、JA管内の産地情報を発信し、ますますの消費宣伝をお願いしたい」と期待を寄せていました。



JAかとり女性部古原支部の皆さんの料理に舌鼓を打つ参加者



石川米の新品種「ひやくまん穀」で料理教室

母の日に園児や高校生らが思いを込めて

石川県本部



「ひやくまん穀」でパエリアを作る子どもたち

この教室は、母の日に「ありがとう」の言葉を添えて、県産米新品種「ひやくまん穀」を使った手作り料理をプレゼントしてもらおうと企画されたもので、「食」に対する関心が薄れてきていると言われる現代の子どもたちに、料理を通して作る喜びを知ってもらうことが目的となっています。当日は、園児から高校生まで、保護者を含む約60人が参加しました。

初めに石川県本部米穀



大粒の「ひやくまん穀」で作ったパエリアは食べ応え抜群

課の山本職員から「ひやくまん穀」のプロモーションムービー上映と特長の説明があり、その後参加者は「ひやくまん穀」を使ったパエリアとフルーツサラダを作りました。参加した子どもたちからは、「お米が大粒で、もちもちしていておいしいね」という声が聞かれました。

石川県では今後も新品種米「ひやくまん穀」を通して、県産米全体の消費拡大に向けてさまざまな取り組みを行っています。

石川県の新しいお米「ひやくまん穀」を使った料理教室が、5月12日の母の日に金沢市長町の青木クッキングスクールで開かれました(協賛:米新品種「ひやくまん穀」普及推進委員会)。



女子プロゴルフ 原選手と国産農畜産物オフィシャルアンバサダー契約

次世代を担うジュニア育成教室などに積極的に取り組む姿勢評価

広報・調査部



国産農畜産物オフィシャルアンバサダーになった原英莉花選手

原選手は、今年20歳となった若手女子プロゴルファーで、ジュニア向けのゴルフ教室などを積極的に行っており、次世代を担う子どもたちの夢の実現を応援する全農の活動方針に合う選手であったため、契約する運びとなりました。

全農は、これからも「ニッポンの食」を通じて、海外で活躍するプロスポーツ選手から次世代を担う子どもたちまで、広く支援していきます。

全農は次世代を担うジュニア育成教室などに積極的に取り組む女子プロゴルファーの原英莉花選手と国産農畜産物オフィシャルアンバサダー契約を締結しました。

原選手は、今年20歳と

だく予定です。

また、原選手もツアートーナメントで1勝(初優勝)を目指しており、全農もその目標に向け、長い戦いを続けて行けるように「ニッポンの食」でサポートします。

原英莉花選手の
オフィシャルサイトは
こちら



右肩後ろに全農のロゴ

畜産事業の研究最前線 6

畜産事業の研究を紹介する当シリーズ第6回は、家畜衛生研究所 研究開発室です。「家畜を病気にさせない予防衛生」を普及させる事で、農家所得の向上と食の安全を図っているのが、千葉県佐倉市にある家畜衛生研究所。研究開発を担う研究開発室と家畜クリニック事業を担うクリニックセンターからなります。研究開発室は、クリニックセンターと密に連携しながら、家畜疾病の検査と新たな診断法の確立、予防に役立つ疾病対策資材の開発などに取り組んでいます。

農家の生産性を阻害する病原微生物を多角的に解析

研究開発室が担う役割は、家畜の生産性を低下させる病気を研究し、その診断技術や予防技術を開発する事です。生産現場で問題が発生すると、



研究開発室の研究員

家畜衛生研究所 研究開発室

家畜疾病の診断法確立と 対策資材の開発を推進

各地のくみあい飼料担当者を介して全国5カ所にあるクリニック分室の衛生担当者（獣医師）が相談を受けます。そこで対策法の確立や研究が必要と考えられた問題に、研究開発室が取り組みます。

こうして、それまでなかった検査法が確立されるとクリニック検査のメニューに加えられ、具体的な予防策が明らかになれば全国のクリニック分室の衛生担当者に速やかに共有されます。研究開発室ではそのよ

より高度な研究を行うため 最新鋭の機器や施設を整備

研究開発室に所属する13人

うな研究成果を生かし、ワクチン、生菌剤、混合飼料などの対策資材を商品化していま



研究成果を生かしさまざまな疾病対策資材を商品化

の職員の研究業務は、病原微生物の分離や性状解析を行う「微生物学的アプローチ」、また病気に感染した動物の体内組織の変化を視

す。全国の養豚場に普及している豚マイコプラズマ肺炎ワクチン「マイコバスター」シリーズや飼料添加物「バチルスJA」や「ZK株」は、研究開発室によって開発された対策資材の一例です。

先端的な研究の実践や作業の効率化に向け、遺伝子レベルの検査ができる「次世代シーケンサー」や、細胞解析用の「フローサイトメーター」など、最



細胞浮遊液を高速で流すフローサイトメーターで、免疫細胞の形状や性質を解析

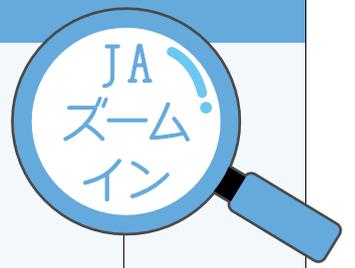
新の設備も積極的に導入しています。また、動物舎の大規模な改修でより多くの家畜を飼えるようになり、さらに多様な試験や研究ができる環境も整いました。

研究の高度化・複雑化に伴い、飼料畜産中央研究所やET研究所など、JA全農の他の研究機関と連携する機会も増えています。

研究員は、アンテナを高くして幅広い情報に接すると共に、自分たちの研究が最終的に生産者の利益向上に寄与するのだという事を、常に念頭に置いて取り組んでいます。

【畜産生産部】

次回は、家畜衛生研究所 クリニックセンターを紹介する予定です。（8月頃掲載予定）



待望のCBSが完成

和子牛生産を下支え

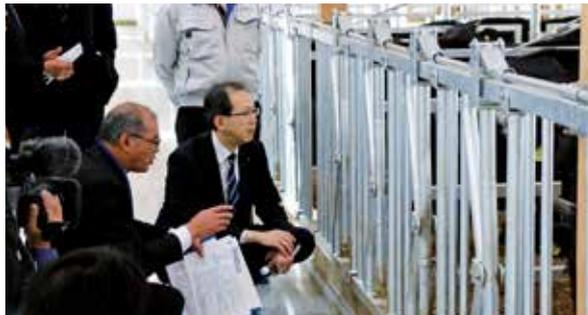
JA福島さくらが出資する農業生産法人「株式会社JA和牛ファーム福島さくら」(田村市常葉町)に3月28日、待望のキャトルブリーディングステーション(CBS)が完成しました。

子牛の生産・出荷と子牛受託・育成柱に

竣工式には同和牛ファームの管野啓二代代表取締役社長や同JAの結城政美代表理事組合長らが出席。管野社長は「震災後、飼育農家戸数と飼養頭数の減少が問題視されていた。そこで、JA自らが畜産振興の旗を揚げ先頭に進むことを決めた。今後、この農場がモデル牛舎と呼ばれるのにふさわしい、地域に誇れる飼養



完成したキャトルブリーディングステーション



完成した施設を視察する内堀雅雄福島県知事(手前右)

管理をしていきたい」とあいさつしました。

同施設は、東日本大震災と原発事故の影響により生産農家の飼養中止が増加し、繁殖農家戸数と繁殖母牛頭数の減少に歯止めがかかっていない状況にあるた

JA福島さくら(福島県)



概要	平成31年2月末
正組合員数	3万8853人
准組合員数	3万5011人
職員数	1486人
販売品取扱高	153億9千万
購買品取扱高	96億3千万円
貯金残高	6518億9千万円
長期共済保有高	1兆7977億1千万円
主な農作物	米、ピーマン、トマト、梨、ネギ

め、繁殖母牛により子牛を生産・出荷するブリーディング事業と、農家から不妊牛などを預かりリハビリ・人工授精を行ったり、委託を受けた子牛を育成し出荷するキャトル事業を軸としています。併せて、管内の和牛繁殖農家の経営基盤の確保や低コスト生産による所得向上と新規就農研修生の受け入れなどにより繁殖牛農家の間口を広げ、生産基盤の強化と飼養頭数維持を目的としています。

発情発見器など最新の機器を導入

施設は、1万736平方メートルの敷地に繁殖雌の飼育牛舎や分娩舎、哺育舎、子牛育成舎、堆肥舎などがあり、発

情発見器やモバイル牛温計などの最新の機械を導入し、安全出産にもつなげていきます。2019年度から預託規模は80頭、繁殖雌牛100頭を飼養し子牛を生産していく計画となります。



牛舎に取り付けた牛の様子を監視する養牛カメラ

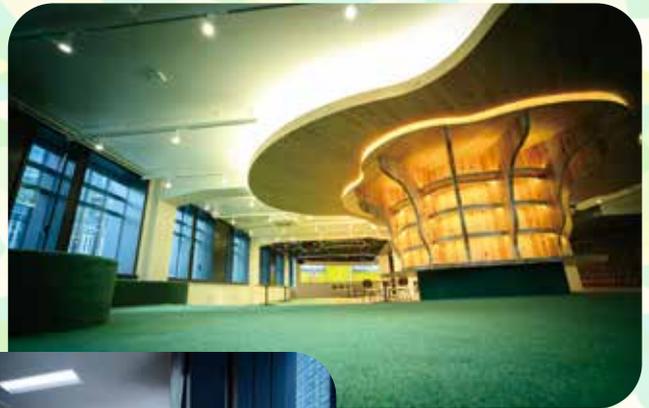
新たな事業を創造する拠点

「AgVenture Lab」開設

全農はJAグループ全国8連共同で5月27日、東京・大手町に新たな事業を創造するオープンイノベーションを実現する拠点として、イノベーションラボ「AgVenture Lab」(アグベンチャーラボ、以下「ラボ」)を開設しました。【経営企画部】

「次世代に残る農業を育て、地域の暮らしに寄り添い、場所や人をつなぐ」をコンセプトに、ラボでスタートアップ企業やパートナー企業、大学、行政など協創し、さまざまな知見やテクノロジーを活用しながら、新たな事業創出、サービス開発、社会課題の解消を目指します。

全農はラボでの活動を通じて外部企業との連携を強化し、AgTec(アグテック:農業分野における新たなテクノロジー)を活用したイノベーションと新たな価値を創出するべく積極的に挑戦していきます。



新たな事業を創造するオープンイノベーションを実現する拠点のイノベーションラボ「AgVenture Lab」

【運営】一般社団法人AgVenture Lab(アグベンチャーラボ) 【JAグループ】全中、全農、共済連、農林中金、家の光協会、全国8連 日本農業新聞、全厚連、農協観光

【住所】東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビルディング9階



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc. ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web 検索
<https://apron-web.jp/>



JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

滋賀・近江・琵琶湖へ「きてか〜な」(JAグリーン近江)



野菜ソムリエラボ、野菜ソムリエの資格を持つこの人たちが選んでいます

JAタウンはこちらから



野菜ソムリエチョイス
近江の野菜BOX(ノーマル)
……3240円



【旬の野菜を野菜ソムリエがチョイスします♪】レシピ付き

滋賀県最大級のファーマーズマーケットJAグリーン近江「きてか〜な」より売り場に届いた新鮮野菜から、日本野菜ソムリエ協会認定の野菜ソムリエプロ・野菜ソムリエの資格を持つスタッフが選んで詰め合わせをした野菜BOXのご紹介です。

直売所ならではの「旬な野菜」「珍しい野菜」なども詰め合わせて、使い方やレシピを添えてお届け致します。今だけここだけの商品どうぞ!

【6月ご注文分のお届け例】

リーフレタス、ミディトマト、キュウリ、新タマネギ、スナップエンドウ、きのこ(マイタケ、シイタケなど)、その他売り場に届いた地元産農産物など1.5~2.0kgくらい詰め合わせ(上記から10点ほど選んでお届けます)。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

*本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。